

令和2(2020)年度水稻生育診断予測事業速報No.4

(コシヒカリ、とちぎの星 7月6日調査結果)

令和2(2020)年7月10日

栃木県農政部経営技術課

- ・宇都宮市で5月4日移植コシヒカリの出穂は7月27日～28日頃と昨年より4～5日早い予想(昨年の出穂期は8月1日)。
- ・県内全域でいもち病が発生しており、防除を徹底する。
- ・斑点米カメムシ類がやや多い状況。本田内の除草と水田周辺の草刈りを実施する。
- ・6月移植は目標茎数が確保できたら、間断かん水へ移行する。

1 気象概況<<6月下旬～7月第1半旬(宇都宮)>>

6月下旬の平均気温は平年より0.5℃高く、降水量は平年比145%と多く、日照時間は平年比55%と少なかった。

7月第1半旬の平均気温は平年より0.7℃高く、降水量は平年比185%と多く、日照時間は平年比37%と少なかった。特に7月に入ってから、曇雨天の日が続いている。

2 調査結果

(1) コシヒカリ(農業試験場調査結果) (表1-2)

草丈は高く(平年比107%)、茎数は多く(106%)、葉齢は平年より0.1多い。葉色は前回の調査では平年より0.8淡く、生育診断値(葉色×茎数)は平年比91%であったが、葉色は平年並に回復し、生育診断値(葉色×茎数)は平年比105%となった。なお、幼穂は0.6mm(昨年は0.9mm)となっている。

現地ほ場は茎数が384～503本/m²で、葉色は一部淡いは場が見られる。幼穂は全地点で確認されている。なお、塩谷町、那須烏山市の2地点で葉いもちが確認された。

(2) とちぎの星(農業試験場調査結果) (表1-2)

草丈は高く(平年比111%)、茎数はやや少なく(96%)、葉齢は平年より0.2少ない。葉色は平年より0.6淡く、生育診断値(葉色×茎数)は平年比83%となっている。なお、葉いもちが確認されている。

現地ほ場は茎数が313～519本/m²で、葉色はやや濃い。普通植栽培(6月16日移植:足利市)は茎数確保が順調に進んでいる。なお、さくら市、足利市の2地点で葉いもちが確認された。

3 出穂予測

(1) 幼穂分化

「初星」は1日、「なすひかり」は2日、「コシヒカリ」は3日平年より早くなった。「とちぎの星」平年並となった。

水稻品種の幼穂分化期（7月6現在、農業試験場・宇都宮市）

	初星	なすひかり	コシヒカリ	とちぎの星
本年	6月20日	6月21日	6月26日	6月30日
平年	6月21日	6月23日	6月29日	6月30日
昨年	6月22日	6月24日	6月30日	7月2日

(2) 7月5日現在の出穂予測（宇都宮市）（図-1）

移植（5月4日）から7月5日までの積算平均気温は、過去10年の平均より21.4℃低い。今後、平均気温が平年並で経過した場合、平均気温から算出した生育ステージ（DVS値）によるコシヒカリ（5月4日移植）の出穂期は7月27日～28日頃（過去10年の平均は7月28日、過去30年の平均は8月1日）と推定される。

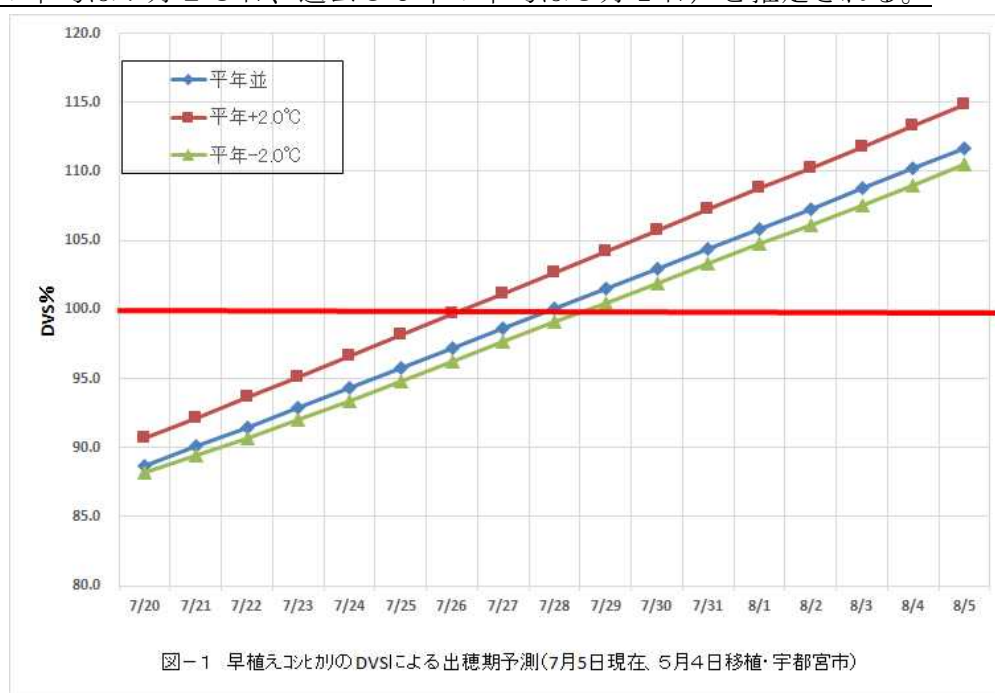


図-1 早植えコシヒカリのDVSによる出穂期予測(7月5日現在、5月4日移植・宇都宮市)

4 技術対策

気象庁地球環境・海洋部発表（令和2（2020）年7月9日）の「関東甲信地方 1か月予報」（7月11日～8月10日の天候見通し）では、“期間の前半は、降水量が多く、日照時間が少ない状態が続く”と予想されている。また、“向こう1か月間の平均気温は平年並及び高い確率ともに40%、降水量は平年並及び多い確率ともに40%、日照時間は平年並及び少ない確率ともに40%”とのことから、出穂期が更に早まる可能性がある。

(1) 水管理

現在は幼穂形成期から幼穂伸長期と推察され、診断値（葉色×莖数）が地域によりばらついており、間断かん水を基本とし、診断値が高い所はやや干し気味にし、倒伏防止に努める。

普通植栽培（とちぎの星）は、目標とする莖数（穂数）340本/m²（目標収量540kg/10a、総粒数25千粒/m²の場合）が確保できたら間断かん水に移行する。

麦跡で有機物が多く入ったほ場でガスの発生が多い場合は、根腐れ等の還元障害の発生が懸念されるため、軽めの中干しによりガス抜きを行う。その後も土壌還元による生育障害発生に注意し、症状を確認したら再度軽めの中干しを行う。

(2) 病害虫の防除

ア いもち病（葉いもち）

コシヒカリ2地点、とちぎの星3地点で葉いもちが確認されており、農業環境指導センター発表（令和2年(2020)年7月10日）の植物防疫ニュース（速報No.6）によると、今年よりいもち病発生が多い状況にある。

今後の気象予報からも、いもち病が発生し、拡大しやすい条件の日が続く見込みなので、ほ場をよく観察し発生が認められた場合は、治療と予防効果のある殺菌剤を散布する。

特に、葉色が濃いほ場や水温の低い用水を利用している場合は、いもち病発生確率が高くなるので粒剤等で予防的に防除する。また、いもち病の発生源となり得る置き苗は早急に処分する。

イ 斑点米カメムシ類（図-2）

農業環境指導センター発表（令和2年(2020)年7月7日）の植物防疫ニュース（速報No.5）によると、6月下旬の水田畦畔や牧草地のすくい取り調査では、斑点米カメムシ類全体の発生状況は平年に比べやや多い状況である。

今後、気温の上昇とともに斑点米カメムシ類の水田への飛来や、その後の発生量が急増する可能性があり、加害による斑点米の発生を助長するおそれがある。本田内の除草及び水田周辺の草刈り（水稻の出穂2～3週間前と出穂期頃の2回）を行ってカメムシ類の発生しにくい環境を整えるとともに、穂揃い期に斑点米カメムシ類が水田内に確認できる場合は薬剤防除を行う。

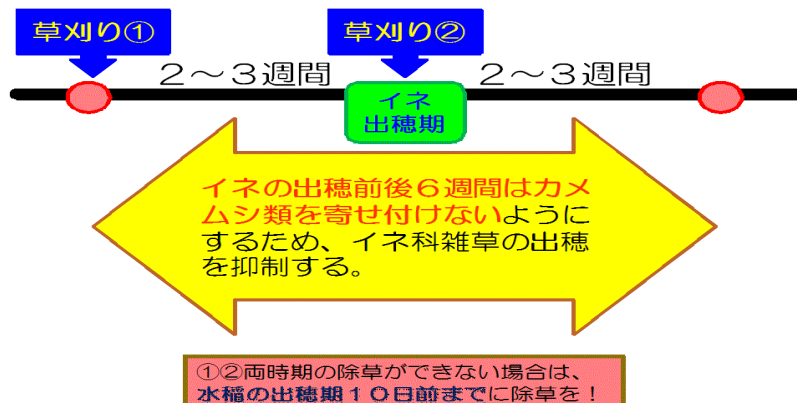



図-2 畦畔2回連続刈りのイメージ

ウ 稲こうじ病

昨年多発したほ場は、防除適期（出穂20～10日前）に効果的な薬剤を必ず散布する。
なお、適期をはずすと効果が低下するので注意する。


※ 薬剤（登録農薬）はラベルの表示を確認して正しく使用する。

栃木県農業環境指導センターHP (<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/index.html>)




気象災害による農業被害を未然に防ぐため、
技術対策情報が 携帯電話等に直接メール配信される
「とちぎ農業防災メール」の御登録をお願いします！

併せて、気象警報・注意報等が直接メール配信される
「栃木県防災メール」の御登録をお願いします！



↑「とちぎ農業防災メール」
登録はコチラから



↑「栃木県防災メール」
仮登録はコチラから